

# 福岡県宗像市南西部市境域に産する緑色結晶片岩

棟上俊二\* (福岡教育大学)

## Petrography of greenschist rock collected near the southwest border of Munakata City, Fukuoka Pref., Japan

TOJO, Shunji\* (Fukuoka Kyoiku Daigaku)

Greenschist rocks were underlain across the southwestern border of Munakata City, Fukuoka Pref., Japan. There are several grains of garnet found in above greenschist, which might be related with overprinting actinolite and hornfels occurrence at hand specimen as a result through thermal metamorphism by the Cretaceous plutons.

福岡県の変成岩体の代表的なものとして三郡蓮華帯がある。山本（1997）には宗像市南西端の市境付近の分布が記載されている。新修宗像市史編集委員会（2019）にもあるように、市内に限定すれば、その分布域は東西約 0.3～0.5km 程度、南北約 0.5km 程度の狭い範囲のものだが、市境を挟んで三郡山地の変成岩体までほぼ連続して分布している。市域内では岩質としては緑色片岩すなわち塩基性片岩が殆どを占めており、野外調査の場ではホルンフェルス化している事に気づく事であろう。

鉱物組み合わせは、細長いアクチノ閃石と粒状の斜長石がみられ、ほかに不透明鉱物や少量の石英が含まれると記されている（山本，1997）。その他にも緑色片岩として通常含まれる、普通角閃石・緑泥石・（±）緑れん石は普通に含まれている。鏡下での特徴としてはアクチノ閃石は場合によって著しく定向性に欠く場合があり、既存の片岩組織に明らかに「上書き」している様相である。このアクチノ閃石は明らかに新しいもので、ホルンフェルス化の段階で生じたものと考えられ、白亜紀花崗閃緑岩の貫入に伴う熱変成の影響と考えられている。

一般的な緑色片岩がそうであるように、

本地域のものも無色鉱物と有色鉱物が交互に縞状をなす様子が観察される。ごく稀に、この無色鉱物のレイヤー中にざくろ石を産するものが存在する。この場合は無色鉱物のみならず緑れん石等も産しており、成因について議論を頂きたい。

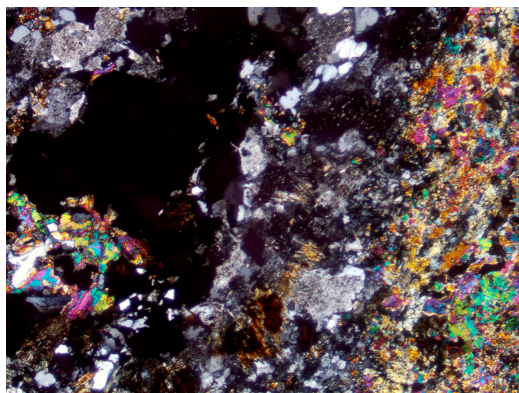


図 1. 直交ニコル，底辺約 1.2mm

### 引用文献

新修宗像市史編集委員会（2019）：新修宗像市史 うみ・やま・かわー地理・自然一，宗像市発行，PP. 522.

山本博達（1997）：宗像市史通史編第 1 巻，第 3 章第 2 節「古生界」，104-107.

Keywords : the Sangun-Renge belt, greenschist rock, garnet, thermal metamorphism, New edition of Munakata City History

\*Corresponding author: stojo@fukuoka-edu.ac.jp